

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	整備課
課長名	木原

事業名	海岸高潮事業				施策番号	
					II - 1 - (4) - ③	
事業概要	災害に強い都市づくりの一環として、高潮等の災害から市民の生命や財産を守るために、臨海部において護岸整備を行います。					事業手法
コスト	事業費	24年度執行額 124,177 千円	25年度当初予算額 111,000 千円	(事業費備考) 25年度当初予算額には、前年度からの補正予算(繰越分)が含まれていません。	人件費	課長 0.10 人 係長 0.15 人 職員 0.40 人
						(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	台風時の高潮などによる災害から市民生活や企業活動を守るため、護岸の嵩上げなどによる高潮対策を行います。			成果実績	当事業の成果実績を数値で表すことは困難ですが、施設完成時において、これまでの最大規模の高潮に対しても、人々が安全で安心な生活を送れる状態を目指します。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	台風や高波などの災害時に人々が安全で安心な生活を送れる状態	—	台風や高波などの災害時に人々が安全で安心な生活を送れる状態を目指します	—	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	「台風や高波などの災害時に人々が安全で安心な生活を送れる状態」を数値で表すことは困難だと考えています。 (最終目標と目標年度) H25年度 護岸整備完了			— %			
	(最終目標と目標年度)					順調	

活動計画	災害対策の重要性の高まりを受け、新門司北地区東護岸においてH25年度の完成に向けて護岸整備を実施します。			活動実績	下記の活動指標のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	海岸高潮事業の護岸整備延長	1,330 m	1,360 m	1,360 m	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	H24年度は、整備予定である延長1,360mを指標として設定しました。			100.0 %		
	(最終目標と目標年度)					順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	新門司北地区東護岸の成果及び活動の状況については、全体計画1,790mのうち、1,360mが完成し、事業が予定通り進んでいるため、順調としています。H25年度完了を目標として、引き続き護岸の整備を進めます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	護岸の断面について、安全性や経済性などに関する比較検討を行い、消波ブロックの大きさを決定するなど、安全かつ経済的な構造を採用し、コスト削減に努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	計画課
課長名	牛島

事業名	臨海部防災拠点整備事業				施策番号	
					II - 1 - (4) - ④	
事業概要	大規模震災時にも物資等の海上輸送機能を確保するため、耐震強化護岸を整備します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
						()
コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額	人件費	目安の金額	課長 0.10人
		117,000 千円	243,000 千円		2,900 千円	係長 0.10人 職員 0.10人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	地震などによる大規模災害時に、市及び周辺地域の経済や生活を支える物資等の海上輸送機能が確保されている状態を目指します。			成果実績	H23年度より、新門司南地区において2バース目の耐震化に着手しており、H26年度に完成する予定です。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	臨海部防災拠点を構成する耐震化岸壁の数	1 バース	単年度目標設定なし	1 バース	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	「大規模災害時における物資等の海上輸送機能が確保されている状態」を表す代替の指標として、臨海部防災拠点を構成する岸壁の耐震化の進捗状況で検討を行います。H30年代前半までに岸壁5バースの耐震化を目指します。 (最終目標と目標年度) 岸壁5バースの耐震化(H30年代前半)			— %		
	(最終目標と目標年度)					順調

活動計画	臨海部防災拠点を形成する耐震強化岸壁の適切な配置・整備について、H23年度の港湾計画の改訂に位置づけ(既設を含む5箇所を予定)が完了しており、今後は位置づけた耐震強化岸壁の整備を、国等と協力して進めていきます。	活動実績	国と協力して新門司南地区の耐震強化岸壁の整備を進めました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	耐震強化岸壁の整備	68 %	74 %	74 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	北九州港で2つ目の耐震化岸壁整備の事業の進捗率を指標として設定しました。			100.0 %		
	(最終目標と目標年度)					順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動の状況、成果の状況ともに、現在実施中の新門司南地区の耐震強化岸壁の整備事業が予定通りに進んでいるため、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	耐震強化岸壁の整備にあたっては、設計段階より、工法の検討などのコスト縮減について、整備を行う国直轄事務所と協議を行っており、今後も引き続きコスト縮減に取り組んでいきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	総務企画課
課長名	深村

事業名	新・海辺のマスタープラン推進事業				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (2) - ③	
事業概要	H23年5月に策定した「新・海辺のマスタープラン」における2つの目標(「目標1:利用できる海辺を増やす」「目標2:海辺の親しまれる度合いを高める」)を実現するための様々な取り組みについて、その検証及びプランの進捗管理を行います。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	1,808 千円	2,500 千円			15,375 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	多くの人々が、海辺を舞台に憩い、学び、遊ぶことのできる魅力ある海辺を目指します。			成果実績	モニタリング結果によると、海辺や港について満足と答えた割合(37.5%)が不満と答えた割合(11.5%)を大きく上回っており、また前年度に比べても満足度は上昇し、不満度は減少しています。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合	35.6 %	単年度目標設定なし	37.5 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民意識調査で、市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合をモニタリングします。(調査は、毎年度行います) ※最終目標は、市民の4分の3以上が満足していることを目指します。 (最終目標と目標年度) 75% (H32年度)			—		
	(最終目標と目標年度)					

活動計画	H23年5月に策定した「新・海辺のマスタープラン」の「利用できる海辺を増やす」、「親しまれる度合いを高める」という目標に基づき、既存施設の開放に向けての調査及びうみたびガイドブックの活用による海辺の情報発信を実施します。	活動実績	下記実績のとおり				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	既存施設の開放に向けた海岸利用状況の調査の実施	—	海岸利用状況の調査の実施	実施	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	市内の海岸線利用の現状把握とその分析を行い、北九州市の海岸利用の今後の展望を検証します。			100.0 %			
	うみたびガイドブックの活用による海辺の情報発信の実施	—	うみナビガイドブックの作成	実施			100.0 %
市内の港湾関係施設の解説について整理し、見学の際の資料をまとめた市民向けのガイドブックを作成します。							

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	モニタリング結果によると、海辺や港について満足と答えた割合(37.5%)が不満と答えた割合(11.5%)を大きく上回っていることから、順調であると判断しました。 また、現在の本市の海辺の魅力等をきちんと広報するガイドブックを作成するなど、短期的に取り組む施策としては、有効性の高い活動を行っていると考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本事業は、マスタープランに掲げる施策に順次取り組むものであるため、各取組みを行う中で経済性・効率性の向上について検討していきます。また、各取組みは多岐にわたり、他局との連携が必要なものもたくさんあるため、他の事業との連携を視野に入れて、効率の良い事業の推進に努めます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	総務企画課
課長名	深村

事業名	市民参加による洞海湾の環境修復検討事業				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (2) - ③	
事業概要	北九州市の環境改善のシンボル洞海湾について、市民の関心を高め、市民が気軽に親しみ体験できる水辺環境を実現するため、ムラサキガイを用いた市民参加型環境修復手法(マイロブ・マイ堆肥)を小学校とNPO団体と実施するとともに、干潟、藻場などを活用した新たな市民参加型の環境修復手法の検討を進め、干潟の活用や藻場の再生など環境修復手法の検討を行います。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額 3,809 千円	25年度当初予算額 1,800 千円	(事業費備考)		目安の金額 7,745 千円

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	ムラサキガイを使った環境修復体験教室や、干潟、藻場などを活用した新たな市民参加による環境修復手法を、小学校や市民団体、NPO法人と協働して実施することにより、洞海湾に対する市民の愛着心を育むとともに、市民が気軽に親しむことのできる水辺環境を実現します。			成果実績	H24年度は洞海湾周辺にある若松中央小学校、牧山小学校、修多羅小学校の5年生を対象に「ムラサキガイを使った洞海湾の環境修復体験教室」を実施し参加者数は当初計画を達成しました。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	環境修復事業に参加する人数	629 人	700 人	710 人			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	洞海湾に対する市民の愛着心を育み、市民と協働で環境改善に取り組むためには、本事業に多くの市民に参加してもらう必要があります。「体験教室」は、地元小学校3校の5年生を対象に年4回実施しており、当該年度の3校の合計児童数約160人に加え、NPO法人等からの参加者を15人と見込み、目標参加人数を175人/回×4回=700人とします。			101.4 %	順調		
	(最終目標と目標年度) のべ参加者人数600人(平成25年度)						
(最終目標と目標年度)							

活動計画	「ムラサキガイを使った洞海湾の環境修復体験教室」については、洞海湾沿岸の小学生の参加により、着実に地域に定着していますが、運営方法について、環境保護・啓発活動のノウハウを持ったNPO団体と協働することにより、学習効果を一層高めて行きます。	活動実績	H23年度より、NPO法人里山を考える会のボランティア(環境学習サポーター)が参加し、環境保護・啓発活動のノウハウを活かして小学生の学習活動のサポートを行っています。			
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	NPO団体との協働開催回数	3 回	12 回	12 回		
	今年度から、環境教室における学習効果を高めるため、NPO団体に学習活動のサポーターとして参加してもらう回数を増やし、運営についてより緊密な協働作業を行なっていきます。			100.0 %	順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	当該事業については、洞海湾沿岸の小学生の継続的な参加により、着実に地域に定着しています。但し、運営方法については、NPO団体と協働するなど経済性や効率性を高めて行く必要があります。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	当該事業については、現在、港湾空港局が運営主体となっていますが、今後の運営については、NPO団体により主体的な役割を担ってもらい、運営の主体を市からNPO団体へ段階的に移行していく検討を行います。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	立地促進課
課長名	光武

事業名	企業誘致活動事業				施策番号	
					IV - 1 - (2) - ①	
事業概要	臨海部産業団地の分譲を促進するため、当該産業団地が持つ「港湾力」の強みを生かして企業訪問等の立地活動を積極的にを行います。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	9,901 千円	11,782 千円		45,100 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	臨海部産業団地が有する充実した港湾インフラの優位性と、「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」の強みを活かした、環境・エネルギー産業や自動車関連産業の集積を図ります。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	臨海部産業用地への企業立地件数	7 件	6 件	2 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	臨海部産業用地の分譲や港湾インフラの利用促進のため、企業の立地促進に努めます。リーマンショック以降経済状況が低迷する中、年間5件以上を維持し、5年間で34件の企業立地を目標とします。 (最終目標と目標年度) 34件 H25年度(H21年度～)			33.3 %			
	(最終目標と目標年度)					遅れ	

活動計画	港湾インフラを活用した物流拠点、環境・エネルギー産業の製造拠点の集積を軸とした企業誘致活動を行います。	活動実績	活動結果は、下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	企業訪問件数	360 件	400 件	530 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	本市の強みを活かした提案や既存企業への事業拡張の提案を行うなどの企業訪問を行います。			132.5 %		
	(最終目標と目標年度)					順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	臨海部産業用地への企業立地を目指し、既存立地企業への事業拡張の提案や市外企業への進出提案をするため、港湾インフラを活用する企業等へ積極的に訪問しました。訪問件数は530件と目標を達しましたので、活動の状況は順調としました。しかし、企業の為替リスク耐性の強化の流れは継続していることから製造業の海外進出が進み、本市の強みを活かした誘致活動を続けたものの、立地件数は目標に達せず2件となりました。よって、成果の状況は遅れとしました。 (企業立地件数【H21～24年度累計】=20件)
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	臨海部産業用地に本市の強みや政策を活かした企業立地を促進することで、雇用創出や経済振興等を進めることができるため、信頼性・公平性を持った自治体が継続して行うべき取組みです。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	立地促進課
課長名	光武

事業名	響灘地区への企業立地推進事業				施策番号	
					IV - 1 - (2) - ①	
事業概要	響灘地区の産業集積を目指し、民間地権者とともに設立した響灘地区開発推進協議会を通じ、同地区への企業集積のための誘致活動、民間地権者との調整などを行います。					事業手法
コスト	事業費	24年度執行額 2,000 千円	25年度当初予算額 2,000 千円	人件費	目安の金額 20,800 千円	課長 0.20 人 係長 0.80 人 職員 1.40 人
						(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	響灘地区の産業集積のため、民間地権者とともに響灘地区開発推進協議会を設立し、企業誘致活動や民間地権者との調整を行います。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	響灘地区への企業立地件数 民間地権者との連携強化・円滑化により立地件数の確保に努めます。リーマンショック以前は年間3件程度の企業立地がありましたが、H21年度以降は大幅に企業投資が冷え込んだことから年間2件の目標に設定しました。 (最終目標と目標年度) 10件 H25年度(H21年度～)	1 件	2 件	3 件 150.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調	

活動計画	・民間地権者との連携強化 ・企業立地の促進 ・市と共催した事業「グローバルウインドデイin北九州」、「北九州市再生可能エネルギー産業シンポジウム」、「北九州港セミナーin東京」の開催	活動実績	活動結果は下記のとおりです。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	民間埋立地権者との連携強化(会議等開催回数) 会議の開催等を通じて、各社との連携を強めます。 企業接触件数 企業訪問、分譲地視察、展示会等の訪問を通して、企業との接触の機会を増やし、響灘地区分譲地へ積極的な誘致活動に努めます。	8 回	6 回	8 回 133.3 % 231 件 115.5 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	民間地権者との連携を図るため、響灘地区開発推進協議会の会議を年8回実施しました。また、民間地権者との調整を図りながら、同地区への企業誘致活動を行い、企業との接触を行いました(年間231件)。当協議会の設立趣旨から、市の政策に合致するターゲット業種に絞った企業誘致を行い、H24年度は目標を超える3件の立地を実現しました。このようなことから、成果の状況、活動の状況ともに順調としています。 (企業立地件数【H21～24年度累計】=8件)
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	響灘地区への企業誘致は同地区の発展にとって重要な課題です。これには、民間地権者の協力による調和のとれた開発と市の施策との整合性が必要となります。当事業は、民間地権者の協力を最大限引き出し、市の政策に沿った開発を進めることができる効率の高い事業と評価できます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	立地促進課
課長名	光武

事業名	グリーンエネルギーポートひびき立地促進事業				施策番号	
					IV - 1 - (2) - ①	
事業概要	響灘地区の「充実した港湾インフラ」、「広大な産業用地」、「アジアに近い地理的優位性」等といったポテンシャルを主要なインセンティブとし、風力発電産業を中心とした再生可能エネルギー産業の集積を図ることを目的に、H22年度から実施している事業です。政府の掲げる新成長戦略の目玉となる総合特区制度への本市からの提案においても、主要プロジェクトの一つとなっています。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	事業費	24年度執行額 13,826 千円	25年度当初予算額 0 千円	(事業費備考)		人件費

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	港湾力と環境力を備える響灘地区を『グリーンエネルギーポートひびき』として、風力発電関連産業をはじめとする環境・エネルギー産業の集積を図ります。			成果実績	成果実績は、下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	風力発電関連産業など環境・エネルギー産業に係る工場や施設の集積数	1 件	4 件	4 件			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	(最終目標と目標年度) 7件 H24年度(H22年度~)			100.0 %				
(最終目標と目標年度)						順調		

活動計画	「再生可能エネルギー特別措置法」の成立により、国内再生可能エネルギーの導入拡大とともに、関連産業の投資へ向けた動きが出てくると思われるため、本市でのシンポジウム及び視察ツアーを行い、直接現地を見てもらうことで、本市立地の優位性を広くPRします。				活動実績	活動結果は、下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	「北九州市再生可能エネルギー産業シンポジウム」への来場者数	—	250 人	289 人			大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	本市の進める「グリーンエネルギーポートひびき」のPRにより、再生可能エネルギー産業の集積を進めるとともに、一般市民へも参加を呼びかけ、本市の取組みについて理解と協力を求めます。			115.6 %				
「テクニカルツアー」への参加者数	—	40 人	47 人	117.5 %	やや遅れ 遅れ	順調		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	環境・エネルギー産業の集積を進めるため、直接の企業訪問やシンポジウム・テクニカルツアーといったPRを行うことで、業界内でも本市の取り組みは認知されてきたと思います。このことから、活動の状況は順調としました。成果の状況については、環境・エネルギー産業関連施設の本市への集積が4件あったことから、順調としました。また、再生可能エネルギー特別措置法の施行により、再生可能エネルギー関連企業による投資も増加傾向にあり、本市への立地等を含めて今後の発展が期待されます。(工場・施設の集積数【H22~24年度累計】=6件)
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	前年度は、「北九州港セミナー」と「風力発電産業シンポジウム」を首都圏にて開催していましたが、今年度は一般市民へのPRと共に、現地視察ツアー等を通じて、実際に現地への進出イメージを描いてもらうことでの直接的な企業誘致効果を狙い、市内でのPRを行いました。これらの2つのイベントを首都圏ではなく市内にて開催することで、イベント開催経費を削減することができました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	立地促進課
課長名	光武

事業名	アジア貨物等物流拠点化効果促進事業				施策番号	
					IV - 1 - (2) - ①	
事業概要	国の「社会資本総合交付金」の効果促進事業を活用した補助金制度により、成長著しいアジアへの輸出貨物、アジアからの輸入貨物を北九州港に誘導することで、北九州市の臨海部産業団地にアジア貨物の拠点形成を図ります。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
		0 千円	8,000 千円			課長 0.10人 係長 0.20人 職員 0.40人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	国の「社会資本総合交付金」の効果促進事業を活用し、成長著しいアジアへの輸出貨物、アジアからの輸入貨物(環境・エネルギー関連産業、自動車関連産業に係るもの)を北九州港に誘導し、アジア貨物の拠点形成を図ることで、アジア貨物の集荷、市産業団地の分譲を実現します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	アジア貨物の拠点誘致数	0 件	1 件	0 件	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	アジア貨物を取り扱う企業に同制度の利用を促し、アジアとの近接性を活かした拠点形成を図ります。 拠点形成の確実な実現のため、目標を1件とします。 (最終目標と目標年度) 3件 H25年度(H23年度~)			0.0 %		
	(最終目標と目標年度)				やや遅れ 遅れ	遅れ

活動計画	今年度は、アジア貨物等物流拠点化効果促進事業の制度化を実施し、補助金の交付による支援によって、北九州港の利用及び製造・物流拠点化の促進を行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	アジア貨物等物流拠点化効果促進補助金の交付件数	0 件	1 件	0 件	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	本市において製造・物流拠点化を目指す企業に対し、北九州港とアジアの港間の海上輸送費について補助金を交付します。			0.0 %		
	事業提案を行った企業数	10 件	10 件	10 件	やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	製造・物流拠点の形成を実現するため、アジア貨物の取扱をする企業又は今後取り扱う可能性のある10件の企業に対し、同制度の利用について事業提案を行いました。さらに今後アジアからの輸入貨物の増加が見込まれる企業をターゲットに、同補助金の交付に向けて提案を進めていましたが、北九州港への集荷が実現できなかったことなどからH24年度内の事業活用には至りませんでした。 このようなことから、活動の状況は順調としましたが、成果の状況は遅れとしております。 今後は、最終年度(H25年度)に向けて、事業提案を行う企業数を増やし事業活用に向けて取り組みます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	北九州港の利用、市産業用地への企業立地の促進による物流拠点化形成を行うという事業の性質から、引き続き市が実施主体となって行う事業と考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	空港企画室
課長名	井上

事業名	北九州空港航空貨物拠点化推進事業				実施番号		
					V - 1 - (3) - ③		
事業概要	24時間運用や税関・検疫空港の指定など、北九州空港の特性を活かし、開港以来、国内外の航空貨物の集積に向け、航空会社への路線誘致やフォワーダーへのセールス活動を行っています。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
						()	
コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05人 係長 0.70人 職員 0.65人
		79,213 千円	129,309 千円			12,450 千円	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	航空貨物便の誘致、空港機能の拡充により北九州空港の航空貨物取扱量の増加を目指します。			成果実績	年度の貨物取扱量が過去最高を記録しました。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	航空貨物取扱量				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	航空会社や貨物輸送事業者に助成をすることによって、航空貨物取扱量を増加させます。 (最終目標と目標年度)H25年度 貨物取扱量30,000t	13,542 t / 年	15,000 t / 年	13,584 t / 年 90.6 %		
	(最終目標と目標年度)					やや遅れ

活動計画	北九州空港の航空貨物拠点化を推進するために、行政及び民間で組織する北九州空港利用促進協議会及び北九州空港国際貨物推進協議会の活動を通じて、以下の支援を行います。 ・貨物定期便の就航及び輸送量の確保(北九州空港利用促進協議会) ・貨物チャーター便の就航(北九州空港国際航空貨物推進協議会) ・北九州空港から国際貨物輸送の流れを作るためにトラック輸送費用(北九州空港国際航空貨物推進協議会)	活動実績	定期便、チャーター便等に対する助成を実施し、就航便数等を増やした。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	貨物チャーター便就航数				大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	北九州空港への就航時に、他空港に比べ割高となる荷役の費用について助成を行い、貨物チャーター便の就航を促します。	13 便	13 便	20 便 153.8 %		
	トラック輸送便数				やや遅れ 遅れ	大変順調
北九州空港までの横もち費用(トラック輸送費用)に対して助成を行うことで、北九州空港から国際貨物輸送へつなぐ輸送の流れをつくります。	124 便	130 便	170 便 130.8 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	北九州空港の航空貨物拠点化を推進するために、行政及び民間で組織する北九州空港利用促進協議会及び北九州空港国際貨物推進協議会の活動を通じて、貨物便の誘致活動や、既存路線支援を行い、着実に貨物拠点化が進展しています。このように、事業手法の有効性は高いものの成果指標に達しなかった点については、長期的な世界経済の低迷により国際航空貨物の取扱が世界的に落ち込んでいることに起因します。国内の主要貨物空港で取扱量を減らす中、前年度を上回る貨物量を確保できました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	行政と民間とで協力して航空会社、荷役業者に対する貨物便の誘致活動等の結果、貨物便が就航し、効率的に事業を行えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	空港企画室
課長名	青木

事業名	北九州空港国際線誘致推進事業				施策番号	
					V - 1 - (3) - ③	
事業概要	北九州空港における国際定期路線の維持・拡充を図るため、定期便就航した航空会社に対して、路線収益の安定を目的として空港施設利用料を助成します。また、定期路線の就航に向けたチャーター便実施の促進を行います。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額		人件費
		21,734 千円	29,278 千円		課長 0.20 人 係長 0.60 人 職員 0.50 人	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 国際定期路線の維持・拡充のため、航空会社を支援することにより路線の定着を目指します。また、チャーター便の実績を積み上げることで、新規路線就航を目指します。	成果実績	H24年4月より、仁川便が運休したものの、H24年7月より、釜山便が就航しました。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	国際定期路線を就航させる航空会社を維持・拡大			1 社	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	国際定期路線を就航させる航空会社の維持・拡大を図ります。 (最終目標と目標年度) 国際定期路線の拡充	1 社	1 社	100.0 %		
						順調
(最終目標と目標年度)						

活動計画	国際定期便である北九州-釜山路線を維持するために航空会社に対する助成を行います。また、国際定期路線の拡充に向け、国際チャーター便の誘致を図るために、国際チャーター便の運航経費の一部を助成します。	活動実績	活動実績は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	国際定期便就航につなげるために国際チャーター便誘致実施			84 便	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	国際チャーター便を誘致するために、その運航経費の一部を助成します。 (※なお、目標数値は、H22年度を除く過去最高数値を基準としています。)	50 便	80 便	105.0 %		
						順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	国際定期便である北九州-仁川(ソウル)便が4月で運休となったものの、7月より北九州-釜山便が就航し、国際定期便の就航社数の1社を維持しました。また、活動指標である国際チャーター便の実施便数の目標を達成したため、チャーター便の実績を根拠にチャーター便を運航した航空会社等に対して今後定期便就航にむけた協議を行っていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	国際定期路線の維持・拡充を行うことで、空港の利用促進を図り、また釜山便のインバウンド(韓国人旅行者)利用者数増加に伴い、少しずつではあるが、地元での消費増加につながってきています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	空港企画室
課長名	井上

事業名	北九州空港高度化推進事業			施策番号			
				V - 1 - (3) - ③			
事業概要	北九州空港は、近年集積が進む自動車産業や半導体産業など、北部九州の広域的な物流拠点として、経済活性化に大きく寄与するものと期待されています。また、福岡空港の将来の混雑問題への対応などに北九州空港を取り巻く周辺環境や情勢の変化に対応する必要があります。 そのような中、北九州空港の将来構想検討や新たな路線誘致検討のための基礎資料とするため、各種調査を行うものです。						
コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額	人件費	目安の金額	課長	
		6,150 千円	0 千円			係長	0.30 人
						職員	0.20 人
						(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	将来構想検討や新たな路線誘致検討などの各種調査を行い、北九州空港の旅客数や貨物取扱量の増加につなげていきます。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	北九州空港の旅客数や貨物取扱量の増加	-	各種調査を行い旅客数や貨物取扱量の増加につなげる	-			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	北九州空港に関する各種調査を行い、基礎資料を作成することで、旅客数や貨物取扱量の増加につなげていきます。 (最終目標と目標年度)			- %	順調		
	(最終目標と目標年度)						

活動計画	北九州空港の将来構想や新たな路線誘致のための各種調査を実施します。 ・北九州空港の民営化等についての検討調査 ・北九州空港における航空輸送状況調査			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州空港の将来構想検討や新たな路線誘致のための各種調査	調査実施	調査	実施		
	北九州空港の経営改革や新たな路線誘致活動の強化につなげるための各種調査を行います。			100.0 %	順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	北九州空港の現状を把握・分析することで、今後の方向性を定めるための基礎資料を得ることができましたので、順調であると考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	それぞれの調査・研究において、豊富なデータや経験のある事業者に調査を委託することで、効率を上げています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	物流振興課
課長名	岡島

事業名	物流拠点都市づくり推進事業			施策番号		
				V - 1 - (3) - ③		
事業概要	北九州市の物流施策の方向性を示す戦略(物流戦略)を検討するとともに、企業ニーズに応えられる総合的な物流施策を推進します。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.10 人
	4,578 千円	6,127 千円			係長	0.10 人
				職員	0.20 人	(人件費備考)

<input checked="" type="checkbox"/> 直営	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金
<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> 負担金
<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託	<input type="checkbox"/> 指定管理
<input type="checkbox"/> その他	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	官民一体となった集貨と創貨の取組みにより、複合型物流拠点の形成を図り、地域産業の活性化及び市民生活の向上を目指します。	成果実績	当該事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、次期基本方針をH24年度中に策定することができたので、地域産業の活性化及び市民生活の向上を目指して、各施策を推進します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	複合型物流拠点都市の形成	-	地域産業の活性化及び市民生活の向上	-	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	ハードとソフトインフラの整備が進むことにより、市内企業の生産及び物流の円滑な活動を推進し、雇用創出や税収増加、及び低炭素社会の実現を図ります。 (最終目標と目標年度) H29年度において、地域産業が活性化し、市民生活が向上すること					順調	
	(最終目標と目標年度)					やや遅れ 遅れ	やや遅れ

活動計画	今年度中に「新北九州市物流拠点都市づくり基本方針」の次期基本方針を策定します。加えて、企業の物流改善ニーズに応えるための社会実験を実施します。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	「新北九州市物流拠点都市づくり基本方針」の次期基本方針策定	素案の策定	次期基本方針の策定	策定	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	現行基本方針(H18~22年度)は終了しており、今年度中に次期基本方針及び目標値を策定します。			100.0 %	順調	
	北九州港における物流改善に関する社会実験	-	社会実験の実施	未実施	やや遅れ	やや遅れ
	企業の物流改善ニーズに応えるために、本市の物流施設を有効活用した社会実験を実施します。			0.0 %	遅れ	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	活動の状況については、H25年3月に次期基本方針である「北九州市物流拠点化戦略基本方針」を策定したものの、物流改善に関する社会実験の実施を翌年度に先送りしたために、やや遅れとしました。 成果の状況については、他の関連計画との整合性を図る必要から次期基本方針の策定期間が遅れたために、やや遅れとしました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	次期基本方針を策定したことで、H25年度以降は一定の事務経費を削減することができます。今後は、企業ニーズを発掘するための社会実験を核としながら、コストを削減してもこれまで以上の成果が得られるように活動していきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	空港企画室
課長名	井上

事業名	北九州空港航空貨物拠点化推進事業					施策番号 V - 2 - (1) - ①
事業概要	24時間運用や税関・検疫空港の指定など、北九州空港の特性を活かし、開港以来、国内外の航空貨物の集積に向け、航空会社への路線誘致やフォワーダーへのセールス活動を行っています。					<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05人 係長 0.70人 職員 0.65人 (人件費備考)
	79,213 千円	129,309 千円			12,450 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	航空貨物便の誘致、空港機能の拡充により北九州空港の航空貨物取扱量の増加を目指します。			成果実績	年度の貨物取扱量が過去最高を記録しました。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	航空貨物取扱量			t / 年	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	航空会社や貨物輸送事業者に助成をすることによって、航空貨物取扱量を増加させます。 (最終目標と目標年度) H25年度 貨物取扱量30,000t	13,542 t / 年	15,000 t / 年	13,584 t / 年		
	(最終目標と目標年度)					やや遅れ

活動計画	北九州空港の航空貨物拠点化を推進するために、行政及び民間で組織する北九州空港利用促進協議会及び北九州空港国際貨物推進協議会の活動を通じて、以下の支援を行います。 ・貨物定期便の就航及び輸送量の確保(北九州空港利用促進協議会) ・貨物チャーター便の就航(北九州空港国際航空貨物推進協議会) ・北九州空港から国際貨物輸送の流れを作るためにトラック輸送費用(北九州空港国際航空貨物推進協議会)				活動実績	定期便、チャーター便等に対する助成を実施し、就航便数等を増やした。
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	貨物チャーター便就航数			便	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	北九州空港への就航時に、他空港に比べ割高となる荷役の費用について助成を行い、貨物チャーター便の就航を促します。	13 便	13 便	20 便		
	トラック輸送便数			便	やや遅れ 遅れ	大変順調
北九州空港までの横もち費用(トラック輸送費用)に対して助成を行うことで、北九州空港から国際貨物輸送へつなぐ輸送の流れをつくります。	124 便	130 便	170 便	130.8 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	北九州空港の航空貨物拠点化を推進するために、行政及び民間で組織する北九州空港利用促進協議会及び北九州空港国際貨物推進協議会の活動を通じて、貨物便の誘致活動や、既存路線支援を行い、着実に貨物拠点化が進展しています。このように、事業手法の有効性は高いものの成果指標に達しなかった点については、長期的な世界経済の低迷により国際航空貨物の取扱が世界的に落ち込んでいることに起因します。国内の主要貨物空港で取扱量を減らす中、前年度を上回る貨物量を確保できました。 行政と民間とで協力して航空会社、荷役業者に対する貨物便の誘致活動等の結果、貨物便が就航し、効率的に事業を行えています。
------------------	---	---

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容) その結果目指す成果(26年度の成果目標)
---------------	-----------	--

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	空港企画室
課長名	青木

事業名	北九州空港国際線誘致推進事業				施策番号	
					V - 2 - (1) - ①	
事業概要	北九州空港における国際定期路線の維持・拡充を図るため、定期便就航した航空会社に対して、路線収益の安定を目的として空港施設利用料を助成します。また、定期路線の就航に向けたチャーター便実施の促進を行います。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額		(事業費備考)
		21,734 千円	29,278 千円		目安の金額	課長 0.20 人 係長 0.60 人 職員 0.50 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 国際定期路線の維持・拡充のため、航空会社を支援することにより路線の定着を目指します。また、チャーター便の実績を積み上げるにより、新規路線就航を目指します。	成果実績	H24年4月より、仁川便が運休したものの、H24年7月より、釜山便が就航しました。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	国際定期路線を就航させる航空会社を維持・拡大			1 社	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	国際定期路線を就航させる航空会社の維持・拡大を図ります。 (最終目標と目標年度) 国際定期路線の拡充	1 社	1 社	100.0 %		
						順調
(最終目標と目標年度)						

活動計画	国際定期便である北九州-釜山路線を維持するために航空会社に対する助成を行います。また、国際定期路線の拡充に向け、国際チャーター便の誘致を図るために、国際チャーター便の運航経費の一部を助成します。	活動実績	活動実績は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	国際定期便就航につなげるために国際チャーター便誘致実施			84 便	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	国際チャーター便を誘致するために、その運航経費の一部を助成します。 (※なお、目標数値は、H22年度を除く過去最高数値を基準としています。)	50 便	80 便	105.0 %		
						順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	国際定期便である北九州-仁川(ソウル)便が4月で運休となったものの、7月より北九州-釜山便が就航し、国際定期便の就航社数の1社を維持しました。また、活動指標である国際チャーター便の実施便数の目標を達成したため、チャーター便の実績を根拠にチャーター便を運航した航空会社等に対して今後定期便就航にむけた協議を行っていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	国際定期路線の維持・拡充を行うことで、空港の利用促進を図り、また釜山便のインバウンド(韓国人旅行者)利用者数増加に伴い、少しずつではあるが、地元での消費増加につながってきています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	空港企画室
課長名	井上

事業名	北九州空港高度化推進事業				施策番号	
					V - 2 - (1) - ①	
事業概要	北九州空港は、近年集積が進む自動車産業や半導体産業など、北部九州の広域的な物流拠点として、経済活性化に大きく寄与するものと期待されています。また、福岡空港の将来の混雑問題への対応などに北九州空港を取り巻く周辺環境や情勢の変化に対応する必要があります。そのような中、北九州空港の将来構想検討や新たな路線誘致検討のための基礎資料とするため、各種調査を行うものです。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額 (事業費備考)	人件費		目安の金額
	6,150 千円	0 千円		4,730 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	将来構想検討や新たな路線誘致検討などの各種調査を行い、北九州空港の旅客数や貨物取扱量の増加につなげていきます。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	北九州空港の旅客数や貨物取扱量の増加	-	各種調査を行い旅客数や貨物取扱量の増加につなげる	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	北九州空港に関する各種調査を行い、基礎資料を作成することで、旅客数や貨物取扱量の増加につなげていきます。 (最終目標と目標年度)			- %			
	(最終目標と目標年度)					順調	

活動計画	北九州空港の将来構想や新たな路線誘致のための各種調査を実施します。 ・北九州空港の民営化等についての検討調査 ・北九州空港における航空輸送状況調査			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州空港の将来構想検討や新たな路線誘致のための各種調査	調査実施	調査	実施	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	北九州空港の経営改革や新たな路線誘致活動の強化につなげるための各種調査を行います。			100.0 %		
	(最終目標と目標年度)					順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	北九州空港の現状を把握・分析することで、今後の方向性を定めるための基礎資料を得ることができましたので、順調であると考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	それぞれの調査・研究において、豊富なデータや経験のある事業者に調査を委託することで、効率を上げています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	物流振興課
課長名	相良

事業名	北九州港集貨・航路誘致事業			施策番号	
				V - 2 - (1) - ②	
事業概要	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行います。				事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長 1.00 人
	37,974 千円	68,688 千円		60,250 千円	係長 1.80 人 職員 4.10 人
					(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州港のPR及び官民一体となったポートセールス活動などにより、物流改善等による北九州港への貨物集約(集貨)、背後地への企業進出による新規貨物の創出(創貨)、北九州港へ寄港する船会社・航路の増加(航路誘致)などを目指します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	【集貨】北九州港貨物取扱量 様々な物流振興により効率的に貨物を集貨することで、港湾貨物取扱量の増加を図ります。この目標値は、H20年の実績をもとに、将来の経済成長予測や過去10年の推移などを踏まえ推計し、「北九州港港湾計画」に定めています。 (最終目標と目標年度) 12,060万t(H30年代前半)	9,998 万t	単年度目標設定なし	9,884 万t - %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調

活動計画	荷主・船社のニーズの把握や、そのニーズに即応する体制を強化するとともに、北九州港利用促進のため、創貨の観点も踏まえ引き続き集貨や航路誘致を着実に進めます。	活動実績	下記の活動のほかに、北九州港利用促進のために、ホームページ、マスコミ・業界紙への情報提供などのPR活動を行いました。			
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	船社、荷主等への企業訪問件数(単年度) 行政としてより積極的な企業訪問を実施し、荷主や船社の動向を把握すると同時に、関係する企業との信頼関係を構築していきます。その結果、北九州港における貨物量の増加や航路拡充の実現を目指します。	373 件	300 件	323 件 107.7 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	北九州港プロモーション活動参加者数(単年度) 視察会や港湾セミナー等のプロモーション活動を展開し、北九州港に興味を持つあるいは利用の可能性のある企業に北九州港の認知度を高め、貨物量の増加や航路誘致実現へと結び付けていきます。	747 人	800 人	732 人 91.5 %	やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	積極的な企業訪問を継続して関係者との信頼関係を構築、強化するとともに、各種セミナー等において北九州港のPRと今後の利用を促すことができました。現在、地元の化学メーカーやタイヤメーカーなどを中心に物流拠点化が進んでいるほか、成長産業である太陽光発電等の環境・エネルギー産業を中心に臨海部への企業進出も進むなど、一定の効果が表れていると判断しています。貨物の取扱量は、年によって景気動向に大きく影響を受けますが、H24年度は前年並み(▲1.1%の微減)を維持しており、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	効率的な出張計画やPR経費の見直しを行い、コストを削減しながらこれまで以上の効果が得られるよう活動しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	物流振興課
課長名	岡島

事業名	国際RORO航路誘致事業				施策番号	
					V - 2 - (1) - ②	
事業概要	RORO船(トレーラー等の車両が自走で乗り込んで貨物の搬出入が可能な貨物船)を北九州港に就航させた運航船社に対し、補助金を交付します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	0千円	0千円			6,400千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	「多頻度」「定時性」「高速性」「特殊輸送への対応可能」などの特徴を持ち、地域産業の国際競争力を支える輸送モードとして期待の高まる国際RORO航路を北九州港に誘致することで、企業の利便性向上を図ります。				成果実績	下記の成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	国際フェリー・RORO航路数(累計)			0 航路	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	RORO船輸送に適した輸出入貨物を北九州港で取り扱えるようにするため、国際定期RORO航路の開設を目指します。 (最終目標と目標年度) 2航路(H27年度)	0 航路	1 航路	0.0 %				
	(最終目標と目標年度)					やや遅れ		

活動計画	国際RORO航路を運航する船会社等に対し、運航経費の一部を補助することによって、積極的な国際RORO航路の誘致を行います。				活動実績	下記の活動指標のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	誘致対象事業者訪問回数(単年度)			54 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	国際フェリー・RORO船を運航する外航船社および関係者を訪問し、北九州港への就航判断に必要なデータの提供や、補助を含むメリット等を案内することで航路の就航を目指します。	55 回	55 回	98.2 %				
	(最終目標と目標年度)					順調		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	複数のRORO船運航船社に対して誘致を働きかけてきた結果、うち1社が自社運航船のトライアル寄港を行うなど、具体的な就航の検討を始めました。 H24年度内の就航には至りませんでした。現在、北九州港への早期寄港に向けた準備を行っている状況です。 燃料油の高騰など、海運業界を取り巻く環境が依然として非常に厳しい中、当事業は船社の就航可否の判断において、一定の効果をあげたと考えます。 今後も誘致活動は継続しますが、補助制度としての事業は廃止します。
-----------	---	---

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	物流振興課
課長名	岡島

事業名	モーダルシフト促進事業				施策番号	
					V - 2 - (1) - ③	
事業概要	北九州港を利用したモーダルシフト(貨物トラック等からJR貨物、内航コンテナ、フェリー等の環境にやさしい輸送手段に転換)輸送に対して補助金を交付します。				<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	24年度執行額 6,017 千円	25年度当初予算額 5,000 千円	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人
	人件費					(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 北九州港を利用したモーダルシフトを推進することで、運輸・物流部門でのCO2を削減します。また、環境未来都市、環境モデル都市・北九州市の認知度を高め、北九州港の利用促進を図ります。			成果実績	下記の成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	運輸・物流部門におけるCO2削減量(累計) 具体的な輸送ルートや貨物量を把握したうえで補助を実施しているため、経済産業省・国土交通省「ロジスティクス分野におけるCO2排出量算定方式共同ガイドライン」によりCO2の算定が可能なことから指標とします。 単年度目標は、最終目標削減量を事業期間(H24~28)で割り戻した値です。 (最終目標と目標年度) 34,500t(H24~28年度累計)	11,300 t	6,900 t	4,200 t 60.9 %	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	フェリー、鉄道輸送等に移行した貨物の定着率 (単年度) 補助事業年度の終了後、1年間継続した事業の割合を「定着率」とし、指標とします。 H24年度は、H23年度実施した補助事業がH24年度末まで継続した割合が100%となることを目標とします。 (最終目標と目標年度) 毎年度の定着率100% (H28年度)	88 %	100 %	100 %	やや遅れ 遅れ	
				100.0 %		順調

活動計画	北九州港を利用したモーダルシフト(貨物トラック等から内航コンテナ、フェリー、鉄道等環境に優しい輸送手段への転換)に対して補助金を交付することで、モーダルシフトの促進を図ります。また、ホームページやメディアを通じて本施策を広くPRするとともに、北九州港の利用促進を図ります。			活動実績	下記の活動指標のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	外部へのPR機会 ホームページ・DM・各セミナーなどを通じ、本制度を広く外部に周知します。	10 回	10 回	10 回 100.0 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	チラシ配布人数 チラシの配布により、本制度を広く外部に周知します。	1,600 枚	1,600 枚	1,700 枚 106.3 %	やや遅れ 遅れ	
						順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	H24年度の実績について、CO2削減量は6割の達成率ですが、定着率については目標どおりの100%を達成しており、事業全体では順調であると判断します。 また、活動指標であった外部へのPR機会の目標もクリアしており、活動は有効であったと判断します。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	少額の経費で大幅なCO2削減・集貨を実現しており、費用対効果の高い事業です。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	空港企画室
課長名	井上

事業名	北九州空港航空貨物拠点化推進事業				施策番号	
					V - 3 - (2) - ①	
事業概要	24時間運用や税関・検疫空港の指定など、北九州空港の特性を活かし、開港以来、国内外の航空貨物の集積に向け、航空会社への路線誘致やフォワーダーへのセールス活動を行っています。				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
					()	
コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
		79,213 千円	129,309 千円			課長 0.05人 係長 0.70人 職員 0.65人
						(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	航空貨物便の誘致、空港機能の拡充により北九州空港の航空貨物取扱量の増加を目指します。			成果実績	年度の貨物取扱量が過去最高を記録しました。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	航空貨物取扱量			13,584 t / 年	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	航空会社や貨物輸送事業者に助成をすることによって、航空貨物取扱量を増加させます。 (最終目標と目標年度)H25年度 貨物取扱量30,000t	13,542 t / 年	15,000 t / 年	90.6 %		
					やや遅れ	やや遅れ
(最終目標と目標年度)				遅れ		

活動計画	北九州空港の航空貨物拠点化を推進するために、行政及び民間で組織する北九州空港利用促進協議会及び北九州空港国際貨物推進協議会の活動を通じて、以下の支援を行います。 ・貨物定期便の就航及び輸送量の確保(北九州空港利用促進協議会) ・貨物チャーター便の就航(北九州空港国際航空貨物推進協議会) ・北九州空港から国際貨物輸送の流れを作るためにトラック輸送費用(北九州空港国際航空貨物推進協議会)	活動実績	定期便、チャーター便等に対する助成を実施し、就航便数等を増やした。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	貨物チャーター便就航数			20 便	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	北九州空港への就航時に、他空港に比べ割高となる荷役の費用について助成を行い、貨物チャーター便の就航を促します。	13 便	13 便	153.8 %		
	トラック輸送便数			170 便	やや遅れ 遅れ	大変順調
北九州空港までの横もち費用(トラック輸送費用)に対して助成を行うことで、北九州空港から国際貨物輸送へつなぐ輸送の流れをつくります。	124 便	130 便	130.8 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	北九州空港の航空貨物拠点化を推進するために、行政及び民間で組織する北九州空港利用促進協議会及び北九州空港国際貨物推進協議会の活動を通じて、貨物便の誘致活動や、既存路線支援を行い、着実に貨物拠点化が進展しています。このように、事業手法の有効性は高いものの成果指標に達しなかった点については、長期的な世界経済の低迷により国際航空貨物の取扱が世界的に落ち込んでいることに起因します。国内の主要貨物空港で取扱量を減らす中、前年度を上回る貨物量を確保できました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	行政と民間とで協力して航空会社、荷役業者に対する貨物便の誘致活動等の結果、貨物便が就航し、効率的に事業を行えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	空港企画室
課長名	青木

事業名	北九州空港国際線誘致推進事業				施策番号	
					V - 3 - (2) - ①	
事業概要	北九州空港における国際定期路線の維持・拡充を図るため、定期便就航した航空会社に対して、路線収益の安定を目的として空港施設利用料を助成します。また、定期路線の就航に向けたチャーター便実施の促進を行います。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額 (事業費備考)		人件費
		21,734 千円	29,278 千円		課長 0.20 人 係長 0.60 人 職員 0.50 人	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 国際定期路線の維持・拡充のため、航空会社を支援することにより路線の定着を目指します。また、チャーター便の実績を積み上げることで、新規路線就航を目指します。	成果実績	H24年4月より、仁川便が運休したものの、H24年7月より、釜山便が就航しました。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	国際定期路線を就航させる航空会社を維持・拡大			1 社	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	国際定期路線を就航させる航空会社の維持・拡大を図ります。 (最終目標と目標年度) 国際定期路線の拡充	1 社	1 社	100.0 %		
(最終目標と目標年度)						

活動計画	国際定期便である北九州-釜山路線を維持するために航空会社に対する助成を行います。また、国際定期路線の拡充に向け、国際チャーター便の誘致を図るために、国際チャーター便の運航経費の一部を助成します。	活動実績	活動実績は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	国際定期便就航につなげるために国際チャーター便誘致実施			84 便	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	国際チャーター便を誘致するために、その運航経費の一部を助成します。 (※なお、目標数値は、H22年度を除く過去最高数値を基準としています。)	50 便	80 便	105.0 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	国際定期便である北九州-仁川(ソウル)便が4月で運休となったものの、7月より北九州-釜山便が就航し、国際定期便の就航社数の1社を維持しました。また、活動指標である国際チャーター便の実施便数の目標を達成したため、チャーター便の実績を根拠にチャーター便を運航した航空会社等に対して今後定期便就航にむけた協議を行っていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	国際定期路線の維持・拡充を行うことで、空港の利用促進を図り、また釜山便のインバウンド(韓国人旅行者)利用者数増加に伴い、少しずつではあるが、地元での消費増加につながってきています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	空港企画室
課長名	井上

事業名	北九州空港高度化推進事業				施策番号			
					V - 3 - (2) - ①			
事業概要	北九州空港は、近年集積が進む自動車産業や半導体産業など、北部九州の広域的な物流拠点として、経済活性化に大きく寄与するものと期待されています。また、福岡空港の将来の混雑問題への対応などに北九州空港を取り巻く周辺環境や情勢の変化に対応する必要があります。そのような中、北九州空港の将来構想検討や新たな路線誘致検討のための基礎資料とするため、各種調査を行うものです。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
コスト	事業費	24年度執行額 6,150 千円	25年度当初予算額 0 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 4,730 千円	課長 0.02 人 係長 0.30 人 職員 0.20 人	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	将来構想検討や新たな路線誘致検討などの各種調査を行い、北九州空港の旅客数や貨物取扱量の増加につなげていきます。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	北九州空港の旅客数や貨物取扱量の増加	-	各種調査を行い旅客数や貨物取扱量の増加につなげる	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	北九州空港に関する各種調査を行い、基礎資料を作成することで、旅客数や貨物取扱量の増加につなげていきます。 (最終目標と目標年度) 将来構想検討や、新規路線誘致のための基礎資料作成			- %			
						順調	
(最終目標と目標年度)							

活動計画	北九州空港の将来構想や新たな路線誘致のための各種調査を実施します。 ・北九州空港の民営化等についての検討調査 ・北九州空港における航空輸送状況調査			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州空港の将来構想検討や新たな路線誘致のための各種調査	調査実施	調査	実施	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	北九州空港の経営改革や新たな路線誘致活動の強化につなげるための各種調査を行います。			100.0 %		
						順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	北九州空港の現状を把握・分析することで、今後の方向性を定めるための基礎資料を得ることができましたので、順調であると考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	それぞれの調査・研究において、豊富なデータや経験のある事業者に調査を委託することで、効率を上げています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題 26年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	物流振興課
課長名	相良

事業名	北九州港集貨・航路誘致事業				施策番号	
					V - 3 - (2) - ①	
事業概要	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行います。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.00 人
	37,974 千円	68,688 千円			60,250 千円	係長 1.80 人 職員 4.10 人
						(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州港のPR及び官民一体となったポートセールス活動などにより、物流改善等による北九州港への貨物集約(集貨)、背後地への企業進出による新規貨物の創出(創貨)、北九州港へ寄港する船会社・航路の増加(航路誘致)などを目指します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	【集貨】北九州港貨物取扱量 様々な物流振興により効率的に貨物を集貨することで、港湾貨物取扱量の増加を図ります。この目標値は、H20年の実績をもとに、将来の経済成長予測や過去10年の推移などを踏まえ推計し、「北九州港港湾計画」に定めています。 (最終目標と目標年度) 12,060万t(H30年代前半)	9,998 万t	単年度目標設定なし	9,884 万t - %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
						順調
	(最終目標と目標年度)					

活動計画	荷主・船社のニーズの把握や、そのニーズに即応する体制を強化するとともに、北九州港利用促進のため、創貨の観点も踏まえ引き続き集貨や航路誘致を着実に進めます。	活動実績	下記の活動のほかに、北九州港利用促進のために、ホームページ、マスコミ・業界紙への情報提供などのPR活動を行いました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	船社、荷主等への企業訪問件数 (単年度)	373 件	300 件	323 件 107.7 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	行政としてより積極的な企業訪問を実施し、荷主や船社の動向を把握すると同時に、関係する企業との信頼関係を構築していきます。その結果、北九州港における貨物量の増加や航路拡充の実現を目指します。					
	北九州港プロモーション活動参加者数 (単年度)	747 人	800 人	732 人 91.5 %	やや遅れ 遅れ	順調
視察会や港湾セミナー等のプロモーション活動を展開し、北九州港に興味を持つあるいは利用の可能性のある企業に北九州港の認知度を高め、貨物量の増加や航路誘致実現へと結び付けていきます。						

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	積極的な企業訪問を継続して関係者との信頼関係を構築、強化するとともに、各種セミナー等において北九州港のPRと今後の利用を促すことができました。現在、地元の化学メーカーやタイヤメーカーなどを中心に物流拠点化が進んでいるほか、成長産業である太陽光発電等の環境・エネルギー産業を中心に臨海部への企業進出も進むなど、一定の効果が表れていると判断しています。貨物の取扱量は、年によって景気動向に大きく影響を受けますが、H24年度は前年並み(▲1.1%の微減)を維持しており、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	効率的な出張計画やPR経費の見直しを行い、コストを削減しながらこれまで以上の効果が得られるよう活動しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	総務企画課
課長名	深村

事業名	市民参加による洞海湾の環境修復検討事業				施策番号	
					VI - 1 - (1) - ③	
事業概要	北九州市の環境改善のシンボル洞海湾について、市民の関心を高め、市民が気軽に親しみ体験できる水辺環境を実現するため、ムラサキイガイを用いた市民参加型環境修復手法(マイロープ・マイ堆肥)を小学校とNPO団体と実施するとともに、干潟、藻場などを活用した新たな市民参加型の環境修復手法の検討を進め、干潟の活用や藻場の再生など環境修復手法の検討を行います。				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
3,809 千円		1,800 千円			7,745 千円	係長 0.25 人 職員 0.50 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	ムラサキイガイを使った環境修復体験教室や、干潟、藻場などを活用した新たな市民参加による環境修復手法を、小学校や市民団体、NPO法人と協働して実施することにより、洞海湾に対する市民の愛着心を育むとともに、市民が気軽に親しむことのできる水辺環境を実現します。	成果実績	H24年度は洞海湾周辺にある若松中央小学校、牧山小学校、修多羅小学校の5年生を対象に「ムラサキイガイを使った洞海湾の環境修復体験教室」を実施し参加者数は当初計画を達成しました。		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	環境修復事業に参加する人数					
	洞海湾に対する市民の愛着心を育み、市民と協働で環境改善に取り組むためには、本事業に多くの市民に参加してもらう必要があります。「体験教室」は、地元小学校3校の5年生を対象に年4回実施しており、当該年度の3校の合計児童数約160人に加え、NPO法人等からの参加者を15人と見込み、目標参加人数を175人/回×4回=700人とします。	629 人	700 人	710 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	(最終目標と目標年度) のべ参加者人数600人(H25年度)			101.4 %		
(最終目標と目標年度)					順調	

活動計画	「ムラサキイガイを使った洞海湾の環境修復体験教室」については、洞海湾沿岸の小中学生の参加により、着実に地域に定着していますが、運営方法について、環境保護・啓発活動のノウハウを持ったNPO団体と協働することにより、学習効果を一層高めて行きます。	活動実績	H23年度より、NPO法人里山を考える会のボランティア(環境学習サポーター)が参加し、環境保護・啓発活動のノウハウを活かして小中学生の学習活動のサポートを行っています。			
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	NPO団体との協働開催回数					
	今年度から、環境教室における学習効果を高めるため、NPO団体に学習活動のサポーターとして参加してもらう回数を増やし、運営についてより緊密な協働作業を行なっていきます。	3 回	12 回	12 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
				100.0 %		
					順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	当該事業については、洞海湾沿岸の小中学生の継続的な参加により、着実に地域に定着しています。但し、運営方法については、NPO団体と協働するなど経済性や効率性を高めて行く必要があります。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	当該事業については、現在、港湾空港局が運営主体となっていますが、今後の運営については、NPO団体により主体的な役割を担ってもらい、運営の主体を市からNPO団体へ段階的に移行していく検討を行います。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題
	26年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	立地促進課
課長名	光武

事業名	グリーンエネルギーポートひびき立地促進事業				施策番号	
					VI - 2 - (2) - ②	
事業概要	響灘地区の「充実した港湾インフラ」、「広大な産業用地」、「アジアに近い地理的優位性」等といったポテンシャルを主要なインセンティブとし、風力発電産業を中心とした再生可能エネルギー産業の集積を図ることを目的に、H22年度から実施している事業です。政府の掲げる新成長戦略の目玉となる総合特区制度への本市からの提案においても、主要プロジェクトの一つとなっています。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	24年度執行額 13,826 千円	25年度当初予算額 0 千円	人件費	目安の金額 31,950 千円	課長 0.30 人 係長 1.20 人 職員 2.20 人 (人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	港湾力と環境力を備える響灘地区を『グリーンエネルギーポートひびき』として、風力発電関連産業をはじめとする環境・エネルギー産業の集積を図ります。			成果実績	成果実績は、下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	風力発電関連産業など環境・エネルギー産業に係る工場や施設の集積数 環境・エネルギー産業の企業立地により、雇用機会の創出、港湾施設の利用促進、税収の確保等につながるため、同産業に係る工場や施設の集積に努めます。目標数値については、再生可能エネルギーの固定価格買取制度の設立に合わせた、関連産業の動きの活発化及び設備投資の増加の可能性を見込み、設定しました。 (最終目標と目標年度) 7件 H24年度(H22年度～)	1 件	4 件	4 件 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調	

活動計画	「再生可能エネルギー特別措置法」の成立により、国内再生可能エネルギーの導入拡大とともに、関連産業の投資へ向けた動きが出てくると思われるため、本市でのシンポジウム及び視察ツアーを行い、直接現地を見てもらうことで、本市立地の優位性を広くPRします。					活動実績	活動結果は、下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	「北九州市再生可能エネルギー産業シンポジウム」への来場者数 本市の進める「グリーンエネルギーポートひびき」のPRにより、再生可能エネルギー産業の集積を進めるとともに、一般市民へも参加を呼びかけ、本市の取組みについて理解と協力を求めます。	—	250 人	289 115.6 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	「テクニカルツアー」への参加者数 響灘地区の産業用地や物流インフラ、さらには響灘沖で実施している洋上風力発電の実証実験の視察を通じて、「グリーンエネルギーポートひびき」の紹介を事業者へ直接行い、産業集積につなげます。	—	40 人	47 117.5 %	やや遅れ 遅れ	順調		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	環境・エネルギー産業の集積を進めるため、直接の企業訪問やシンポジウム・テクニカルツアーといったPRを行うことで、業界内でも本市の取り組みは認知されてきたと思います。このことから、活動の状況は順調としました。成果の状況については、環境・エネルギー産業関連施設の本市への集積が4件あったことから、順調としました。また、再生可能エネルギー特別措置法の施行により、再生可能エネルギー関連企業による投資も増加傾向にあり、本市への立地等を含めて今後の発展が期待されます。 (工場・施設の集積数【H22～24年度累計】=6件)
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	前年度は、「北九州港セミナー」と「風力発電産業シンポジウム」を首都圏にて開催していましたが、今年度は一般市民へのPRと共に、現地視察ツアー等を通じて、実際に現地への進出イメージを描いてもらうことでの直接的な企業誘致効果を狙い、市内でのPRを行いました。これらの2つのイベントを首都圏ではなく市内にて開催することで、イベント開催経費を削減することができました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	物流振興課
課長名	岡島

事業名	モーダルシフト促進事業				施策番号	
					VI - 2 - (3) - ①	
事業概要	北九州港を利用したモーダルシフト(貨物トラック等からJR貨物、内航コンテナ、フェリー等の環境にやさしい輸送手段に転換)輸送に対して補助金を交付します。				<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	24年度執行額 6,017 千円	25年度当初予算額 5,000 千円	人件費	目安の金額 3,075 千円	課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人 (人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州港を利用したモーダルシフトを推進することで、運輸・物流部門でのCO2を削減します。また、環境未来都市、環境モデル都市・北九州市の認知度を高め、北九州港の利用促進を図ります。				成果実績	下記の成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	運輸・物流部門におけるCO2削減量(累計)	11,300 t	6,900 t	4,200 t	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	具体的な輸送ルートや貨物量を把握したうえで補助を実施しているため、経済産業省・国土交通省「ロジスティクス分野におけるCO2排出量算定方式共同ガイドライン」によりCO2の算定が可能ことから指標とします。 単年度目標は、最終目標削減量を事業期間(H24~28)で割り戻した値です。 (最終目標と目標年度) 34,500t(H24~28年度累計)			60.9 %				
	フェリー、鉄道輸送等に移行した貨物の定着率 (単年度)	88 %	100 %	100 %	やや遅れ 遅れ	順調		
補助事業年度の終了後、1年間継続した事業の割合を「定着率」とし、指標とします。 H24年度は、H23年度実施した補助事業がH24年度末まで継続した割合が100%となるのが目標となります。 (最終目標と目標年度) 毎年度の定着率100% (H28年度)	100.0 %							

活動計画	北九州港を利用したモーダルシフト(貨物トラック等から内航コンテナ、フェリー、鉄道等環境に優しい輸送手段への転換)に対して補助金を交付することで、モーダルシフトの促進を図ります。また、ホームページやメディアを通じて本施策を広くPRするとともに、北九州港の利用促進を図ります。				活動実績	下記の活動指標のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	外部へのPR機会(単年度)	10 回	10 回	10 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	ホームページ・DM・各セミナーなどを通じ、本制度を広く外部に周知します。			100.0 %				
	チラシ配布人数(単年度)	1,600 枚	1,600 枚	1,700 枚	やや遅れ 遅れ	順調		
チラシの配布により、本制度を広く外部に周知します。	106.3 %							

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	H24年度の実績について、CO2削減量は6割の達成率ですが、定着率については目標通りの100%を達成しており、事業全体では順調であると判断します。 また、活動指標であった外部へのPR機会の目標もクリアしており、活動は有効であったと判断します。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	少額の経費で大幅なCO2削減・集貨を実現しており、費用対効果の高い事業です。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	総務企画課
課長名	深村

事業名	新・海辺のマスタープラン推進事業				施策番号	
					VI - 4 - (1) - ③	
事業概要	H23年6月に策定した「新・海辺のマスタープラン」における2つの目標(「目標1:利用できる海辺を増やす」「目標2:海辺の親しまれる度合いを高める」)を実現するための様々な取り組みについて、その検証及びプランの進捗管理等を行います。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
		1,808 千円	2,500 千円			課長 0.25人 係長 0.50人 職員 1.00人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	多くの人々が、海辺を舞台に憩い、学び、遊ぶことのできる魅力ある海辺を目指します。	成果実績	モニタリング結果によると、海辺や港について満足と答えた割合(37.5%)が不満と答えた割合(11.5%)を大きく上回っており、また前年度に比べても満足度は上昇し、不満度は減少しています。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合	35.6 %	単年度目標設定なし	37.5 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民意識調査で、市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合をモニタリングします。(調査は、毎年度行います) ※最終目標は、市民の4分の3以上が満足していることを目指します。 (最終目標と目標年度) 75%(H32年度)			—		
	(最終目標と目標年度)					順調

活動計画	H23年5月に策定した「新・海辺のマスタープラン」の「利用できる海辺を増やす」、「親しまれる度合いを高める」という目標に基づき、既存施設の開放に向けての調査及びうみたびガイドブックの活用による海辺の情報発信を実施します。	活動実績	下記実績のとおり			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	既存施設の開放に向けた海岸利用状況の調査の実施	—	海岸利用状況の調査の実施	実施	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市内の海岸線利用の現状把握とその分析を行い、北九州市の海岸利用の今後の展望を検証します。			100.0 %		
	うみたびガイドブックの活用による海辺の情報発信の実施	—	うみナビガイドブックの作成	実施	やや遅れ 遅れ	順調
市内の港湾関係施設の解説について整理し、見学の際の資料をまとめた市民向けのガイドブックを作成します。	100.0 %					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	モニタリング結果によると、海辺や港について満足と答えた割合(37.5%)が不満と答えた割合(11.5%)を大きく上回っていることから、順調であると判断しました。 また、現在の本市の海辺の魅力等をきちんと広報するガイドブックを作成するなど、短期的に取り組む施策としては、有効性の高い活動を行っていると考えています。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本事業は、マスタープランに掲げる施策に順次取り組むものであるため、各取組みを行う中で経済性・効率性の向上について検討していきます。また、各取組みは多岐にわたり、他局との連携が必要なものもたくさんあるため、他の事業との連携を視野に入れつつ、効率の良い事業の推進に努めます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	総務企画課
課長名	深村

事業名	市民参加による洞海湾の環境修復検討事業				施策番号	
					VI - 4 - (1) - ③	
事業概要	北九州市の環境改善のシンボル洞海湾について、市民の関心を高め、市民が気軽に親しみ体験できる水辺環境を実現するため、ムラサキイガイを用いた市民参加型環境修復手法(マイロープ・マイ堆肥)を小学校とNPO団体と実施するとともに、干潟、藻場などを活用した新たな市民参加型の環境修復手法の検討を進め、干潟の活用や藻場の再生など環境修復手法の検討を行います。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額		課長 0.13 人 係長 0.25 人 職員 0.50 人
事業費	3,809 千円	1,800 千円		7,745 千円		

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	ムラサキイガイを使った環境修復体験教室や、干潟、藻場などを活用した新たな市民参加による環境修復手法を、小学校や市民団体、NPO法人と協働して実施することにより、洞海湾に対する市民の愛着心を育むとともに、市民が気軽に親しむことのできる水辺環境を実現します。		成果実績	H24年度は洞海湾周辺にある若松中央小学校、牧山小学校、修多羅小学校の5年生を対象に「ムラサキイガイを使った洞海湾の環境修復体験教室」を実施し参加者数は当初計画を達成しました。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	環境修復事業に参加する人数	629 人	700 人	710 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	洞海湾に対する市民の愛着心を育み、市民と協働で環境改善に取り組むためには、本事業に多くの市民に参加してもらう必要があります。「体験教室」は、地元小学校3校の5年生を対象に年4回実施しており、当該年度の3校の合計児童数約160人に加え、NPO法人等からの参加者を15人と見込み、目標参加人数を175人/回×4回=700人とします。 (最終目標と目標年度) のべ参加者人数600人(H25年度)			101.4 %		
(最終目標と目標年度)						

活動計画	「ムラサキイガイを使った洞海湾の環境修復体験教室」については、洞海湾沿岸の小学生の参加により、着実に地域に定着していますが、運営方法について、環境保護・啓発活動のノウハウを持ったNPO団体と協働することにより、学習効果を一層高めていきます。	活動実績	H23年度より、NPO法人里山を考える会のボランティア(環境学習サポーター)が参加し、環境保護・啓発活動のノウハウを活かして小学生の学習活動のサポートを行っています。			
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	NPO団体との協働開催回数	3 回	12 回	12 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	今年度から、環境教室における学習効果を高めるため、NPO団体に学習活動のサポーターとして参加してもらう回数を増やし、運営についてより緊密な協働作業を行なっていきます。			100.0 %		
(最終目標と目標年度)						

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	当該事業については、洞海湾沿岸の小学生の継続的な参加により、着実に地域に定着しています。但し、運営方法については、NPO団体と協働するなど経済性や効率性を高めて行く必要があります。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	当該事業については、現在、港湾空港局が運営主体となっていますが、今後の運営については、NPO団体により主体的な役割を担ってもらい、運営の主体を市からNPO団体へ段階的に移行していく検討を行います。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	港湾空港局
担当課	物流振興課
課長名	相良

事業名	北九州港集貨・航路誘致事業				施策番号	
					VII - 2 - (1) - ②	
事業概要	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行います。					事業手法
コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長 1.00 人
		37,974 千円	68,688 千円		60,250 千円	係長 1.80 人 職員 4.10 人
						(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州港のPR及び官民一体となったポートセールス活動などにより、物流改善等による北九州港への貨物集約(集貨)、背後地への企業進出による新規貨物の創出(創貨)、北九州港へ寄港する船会社・航路の増加(航路誘致)などを目指します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
----	---------------------	--	------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		【集貨】北九州港貨物取扱量 様々な物流振興により効率的に貨物を集貨することで、港湾貨物取扱量の増加を図ります。この目標値は、H20年の実績をもとに、将来の経済成長予測や過去10年の推移などを踏まえ推計し、「北九州港港湾計画」に定めています。 (最終目標と目標年度) 12,060万t(H30年代前半)	9,998 万t	単年度目標設定なし	9,884 万t - %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	(最終目標と目標年度)					

活動計画	荷主・船社のニーズの把握や、そのニーズに即応する体制を強化するとともに、北九州港利用促進のため、創貨の観点も踏まえ引き続き集貨や航路誘致を着実に進めます。	活動実績	下記の活動のほかに、北九州港利用促進のために、ホームページ、マスコミ・業界紙への情報提供などのPR活動を行いました。
------	---	------	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		船社、荷主等への企業訪問件数 (単年度) 行政としてより積極的な企業訪問を実施し、荷主や船社の動向を把握すると同時に、関係する企業との信頼関係を構築していきます。その結果、北九州港における貨物量の増加や航路拡充の実現を目指します。	373 件	300 件	323 件 107.7 %	大変順調 順調
	北九州港プロモーション活動参加者数 (単年度) 視察会や港湾セミナー等のプロモーション活動を展開し、北九州港に興味を持つあるいは利用の可能性がある企業に北九州港の認知度を高め、貨物量の増加や航路誘致実現へと結び付けていきます。	747 人	800 人	732 人 91.5 %	やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	積極的な企業訪問を継続して関係者との信頼関係を構築、強化するとともに、各種セミナー等において北九州港のPRと今後の利用を促すことができました。現在、地元の化学メーカーやタイヤメーカーなどを中心に物流拠点化が進んでいるほか、成長産業である太陽光発電等の環境・エネルギー産業を中心に臨海部への企業進出も進むなど、一定の効果が表れていると判断しています。貨物の取扱量は、年によって景気動向に大きく影響を受けますが、H24年度は前年並み(▲1.1%の微減)を維持しており、順調としました。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	効率的な出張計画やPR経費の見直しを行い、コストを削減しながらこれまで以上の効果が得られるよう活動しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)